

TUTC Library

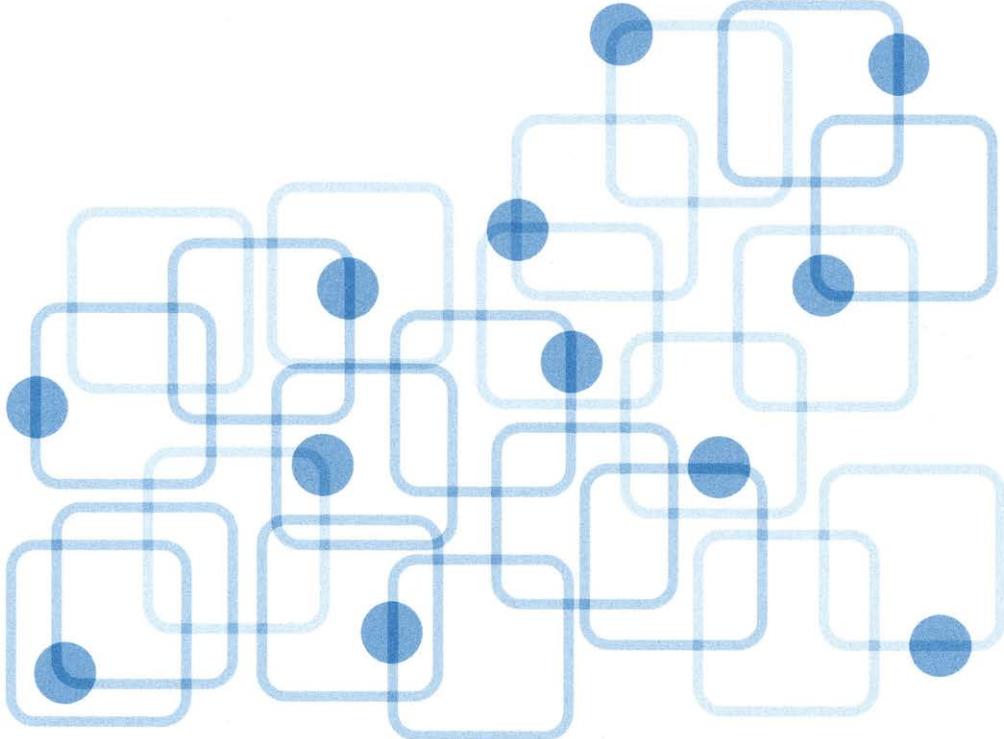
Tsukuba Urban
Transportation Center

財団法人 つくば都市交通センター

35

平成20年3月発行
Published
in March 2008
by Tsukuba Urban
Transportation Center

－作品－
少年少女が考える
「つくばのまちと交通」(VoL.1)



はじめに

平成 17 年 8 月につくばエクスプレスが開通し、つくばの街が大きく変化しつつある中で、つくば市は平成 19 年に市制 20 周年を迎える。平成 20 年 6 月には財団法人つくば都市交通センターが創立 20 周年を迎えます。

こうした時期、当財団は、つくばに住みつくばを訪れる皆様とともにこれから「つくばのまちと交通」について考え、少しでも実現できるものから取り組んでいきたいとの趣旨から、平成 19 年の夏休みを利用して、つくばの次世代を担う少年少女の新鮮な発想・創造力を通じて「つくばのまちと交通」をより良いものにする提案をいただくため、作文、絵画・ポスターによる作品募集を行いました。

本冊子は、作品募集の概要とその内容について成果を取りまとめ、市民や関係者の皆様に今後のより良い街づくりについて考えていただくための参考資料としてまとめたものです。

目次

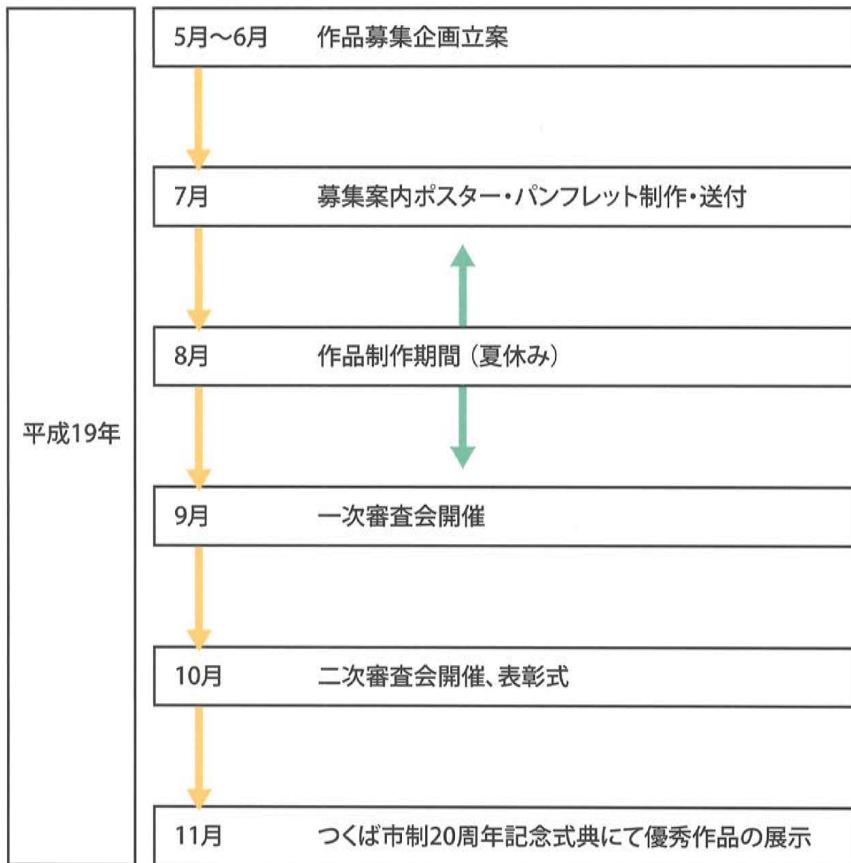
1. 作品募集の経過	
(1) スケジュール	1
(2) 応募概要	2
(3) 応募状況	3
(4) 審査経過	7
(5) 審査結果	8
2. 応募作品の分析	
(1) 作文分析	10
(2) 絵画分析	14
(3) ポスター分析	18
3. 考察	
(1) 作文考察	23
(2) 絵画・ポスター考察	26
4. 優秀作品紹介	
(1) 作文部門	29
(2) 絵画・ポスター部門	41
5. 参考	
(1) 募集	49
(2) 記録	52

1. 作品募集の経過



1. 作品募集の経過

(1) スケジュール



(2) 応募概要

1) 対象

つくば市内の全小学校の児童、全中学校の生徒

2) 応募学校数

小学校 38 校中 23 校

中学校 15 校中 6 校

計 53 校中 29 校

3) 応募総数

小学校 12,300 名中 70 名

中学校 6,300 名中 50 名

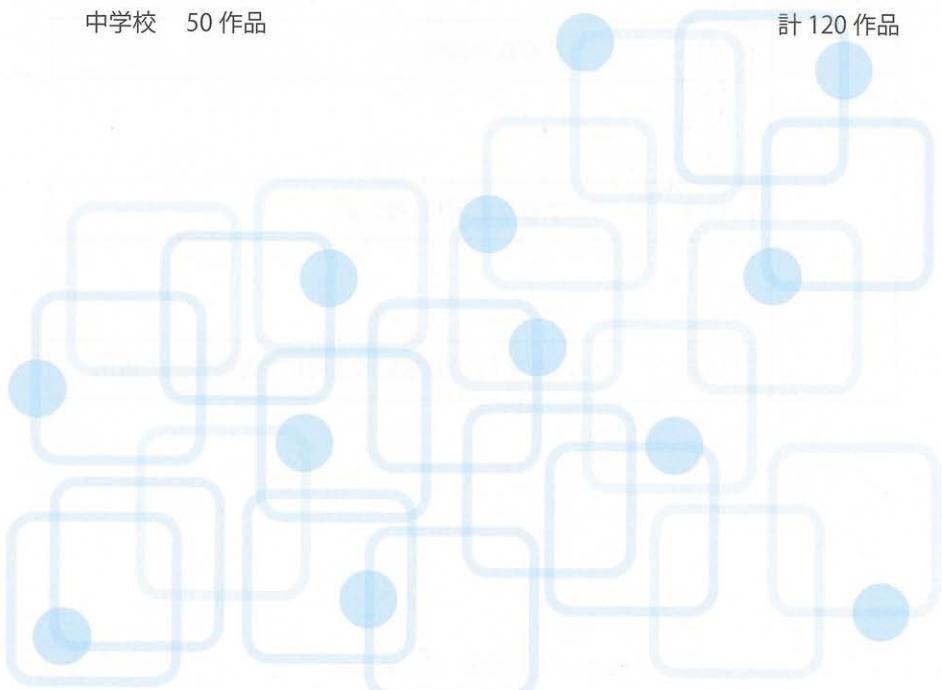
計 18,600 名中 120 名

4) 応募作品数

小学校 70 作品

中学校 50 作品

計 120 作品

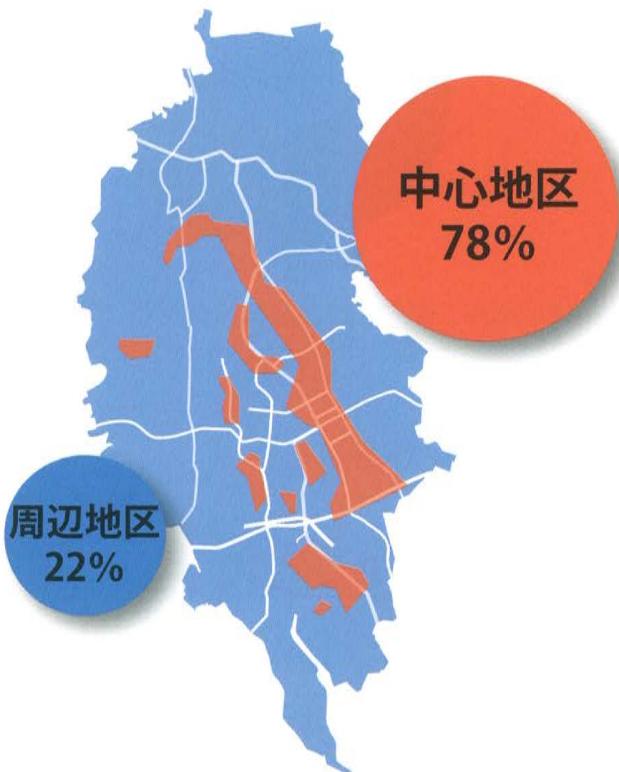


(3) 応募状況

□ 地区別内訳

中心地区：つくば市の中央部約2,700ha。

周辺地区：中心地区以外の区域約25,700ha。



応募学校数及び作品数内訳

中心地区：小学校 9 校中 9 校

中学校 6 校中 3 校

計 15 校中 12 校：88 作品

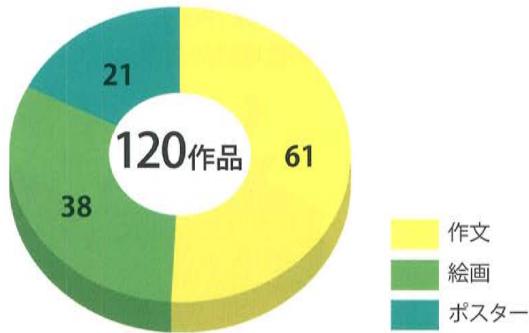
周辺地区：小学校 29 校中 14 校

中学校 9 校中 3 校

計 38 校中 17 校：32 作品

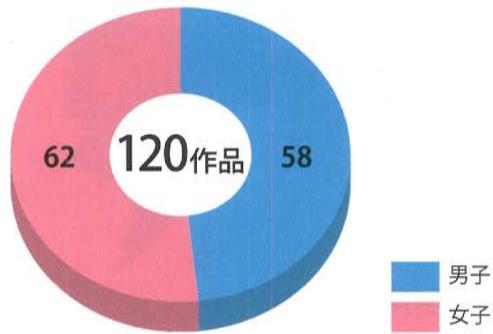
学校あたりの応募数で中心地区が上回り、中心・周辺で 8:2 と大きな差が出た。

□全作品内訳



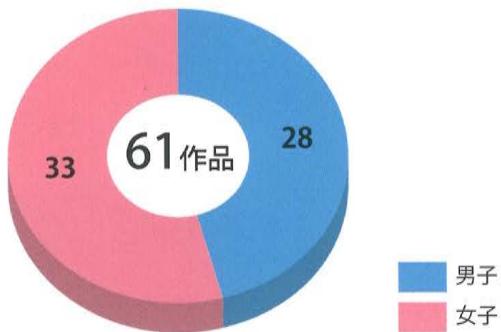
全作品 120 作品中、作文 61 作品、絵画 38 作品、ポスター 21 作品という割合になった。

□全作品内訳（男女別）



全作品 120 作品中、男子生徒が 58 作品、女子生徒が 62 作品と女子生徒がやや多いものの、約 1:1 でバランスがとれていた。

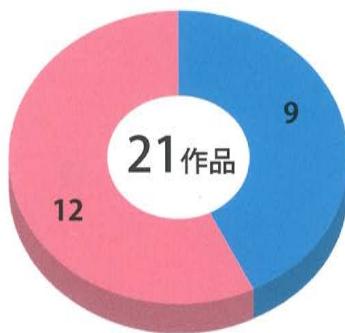
□男女別内訳(作文)



□男女別内訳(絵画)

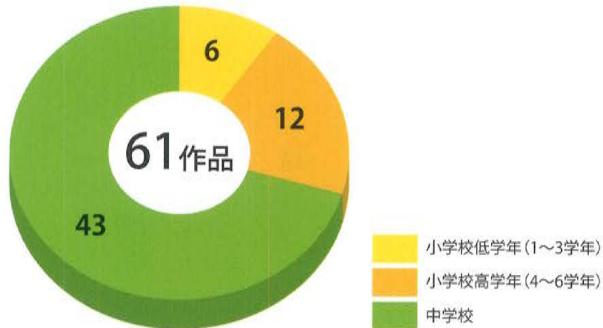


□男女別内訳(ポスター)

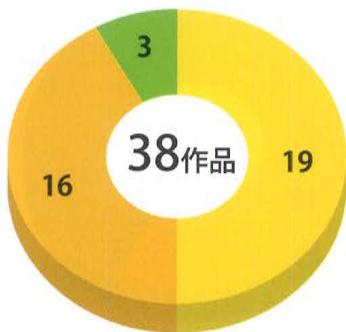


男女ともに作文部門への応募が約半数を占めたが、男子は女子に比べて絵画部門へ応募する割合がやや多く見られた。

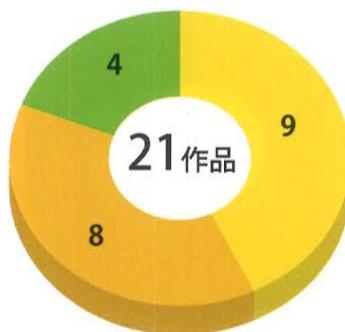
□学年別内訳(作文)



□学年別内訳(絵画)



□学年別内訳(ポスター)



作文については、中学校からの応募が 43 作品と 7 割を占め、小学校からの応募は 3 割にとどまった。

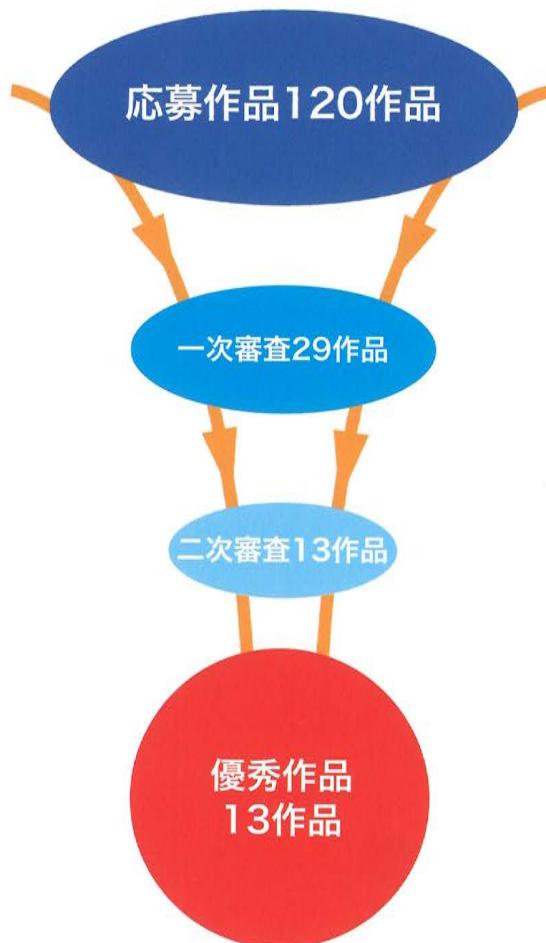
一方絵画・ポスター部門では作文とは逆に小学校からの応募が約 9 割を占め、中学校からは両部門合計で 7 作品の応募にしか至らなかった。

以上各部門ごとに違いが出たが、全体としては小学校 70 作品、中学校 50 作品で 6 : 4 の割合で小学生の応募が多くかった。

(4) 審査経過

応募作品 120 作品について、一次審査会では作文 15 作品、絵画・ポスター 14 作品の、計 29 作品を選出した。

そして、二次審査会では、上記の 29 作品から優秀作品 13 作品を選出した。



(5) 審査結果

つくば市長賞	1 作品
つくば市教育委員会教育長賞	1 作品
財団法人つくば都市交通センター理事長賞	1 作品
財団法人研究学園都市コミュニティケーブルサービス理事長賞	1 作品
株式会社常陽新聞新社社長賞	1 作品
茨城県駐車場協会会长賞	1 作品
優秀賞	6 作品
特別賞	1 作品
計	13 作品

優秀学校賞（小学校低学年の部）	1 校
優秀学校賞（小学校高学年の部）	1 校
優秀学校賞（中学校の部）	1 校
計	3 校



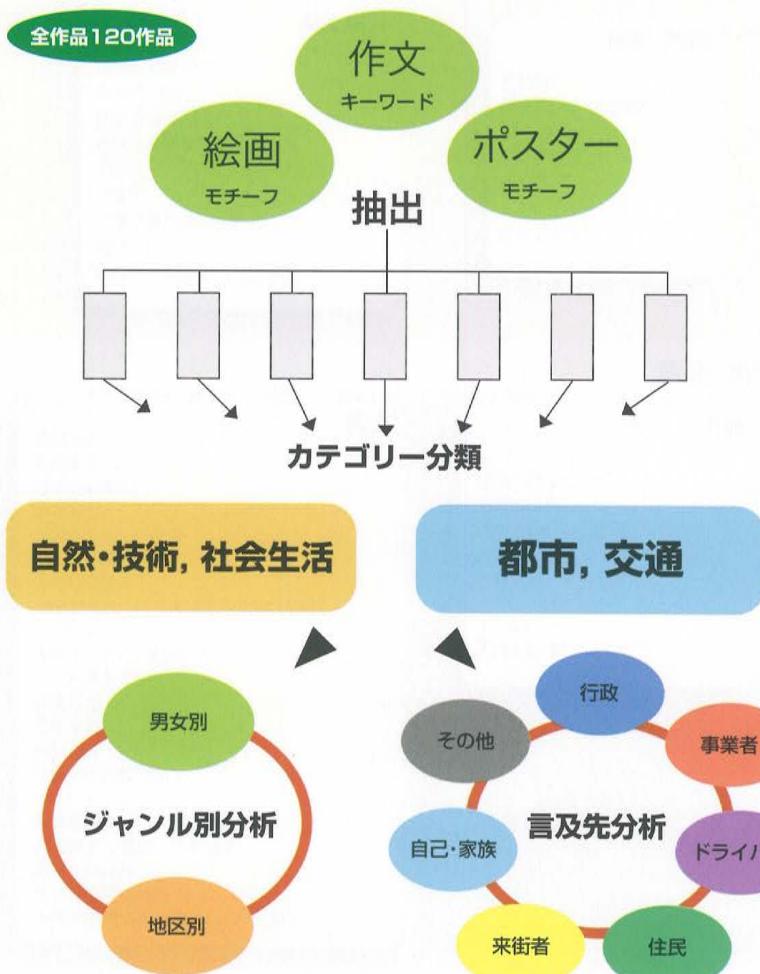
2. 応募作品の分析



2. 応募作品の分析

■ 分析フロー

応募された全ての作品内容から、作文はキーワードを、絵画・ポスターについてはモチーフを抽出し、カテゴリー別に分類することにしてみた。さらにそれらのカテゴリーをジャンル別に分析することで、つくばの少年少女が抱いている現在、未来に対する意識や考え方などについて考察することにした。



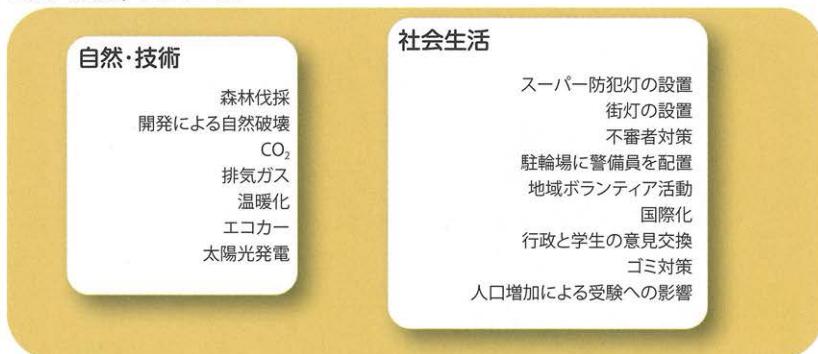
※その他:上記いずれの項目にも該当しないもの

(1) 作文分析

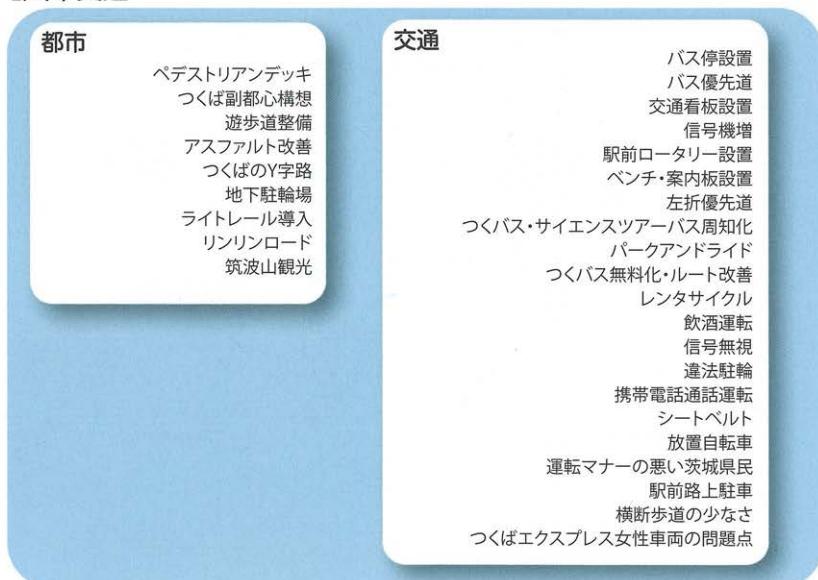
1) 作文キーワード抽出・カテゴリー分類

作品に登場した主なキーワードを抽出し、以下のようにカテゴリー別に分類した。

自然・技術, 社会生活



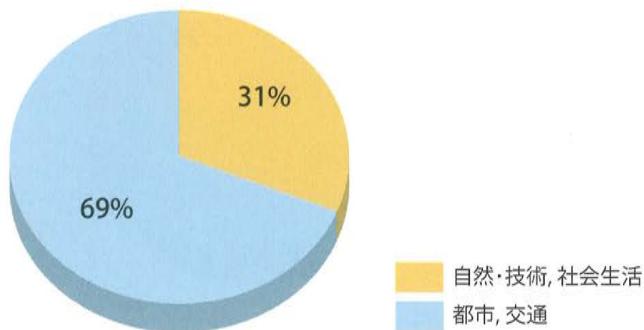
都市, 交通



以下、各カテゴリーについて、男女別・地区別に分析を行った。

2) -① 作文ジャンル別分析（男女別）

□ 男子 / 28作品

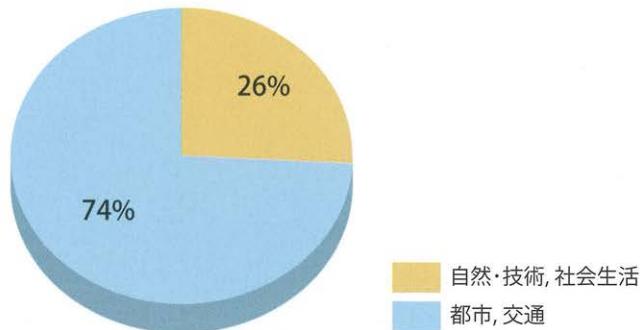


□ 女子 / 33作品



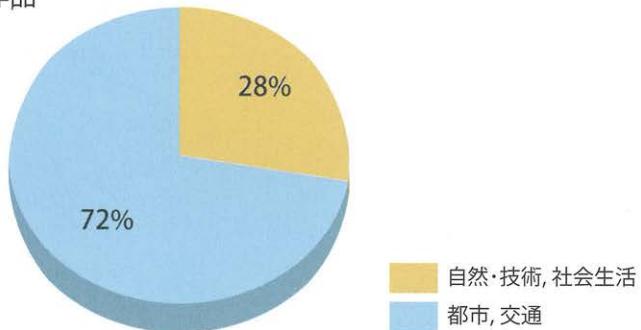
作文では、男子・女子とともに交通マナーや安全、利便等の都市や交通に関する記述が多かった。男子は技術に関する記述がやや多く見られた。

2) -② 作文ジャンル別分析 (地区別)

 中心地区 / 50作品

都市, 交通に関する作品が 7 割にのぼり、内容も多岐にわたっていた。周辺地区に比べ、交通安全・マナーに関して徒歩・自転車での移動が多いということが、文章内容にもはっきりと反映されていた。つくばエクスプレスに関する記述も多く、利点、問題点双方に触れていた。

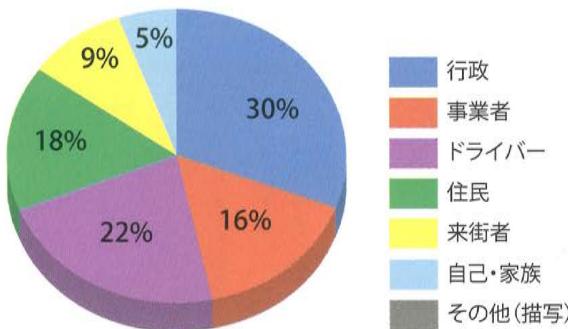
環境問題などにも言及していた。周辺地区に比べると排気ガスなどの公害防止に関する記述が多く、つくばらしいテクノロジーを駆使しての解決方法を提言しているものもあった。

 周辺地区 / 11作品

中心地区への中距離移動が多いためか、交通手段など利便に関する内容が多かった。自然が数多く残っている故の、開発による自然破壊の抑制に関する記述も多く見られた。

3) 作文言及先分析

各々の作品が最終的に誰に対して提言をしているのか、言及先別に分類した。



行政に対しての駐車場・駐輪場等の設置要求、ドライバーの危険運転への警告、バス・つくばエクスプレス運営業者に対してや、住民の交通マナーについての割合が多くを占めた。

(2) 絵画分析

1) 絵画モチーフ抽出・カテゴリー分類

作品に描写されている、主なモチーフを抽出し、以下のようにカテゴリー別に分類した。

自然・技術, 社会生活

自然・技術

筑波山
田園風景
昆虫
エコカー

社会生活

清掃等
公園
ロケット

都市, 交通

都市

駐輪場
リンリンロード
つくばエクスプレス
モノレール
圏央道

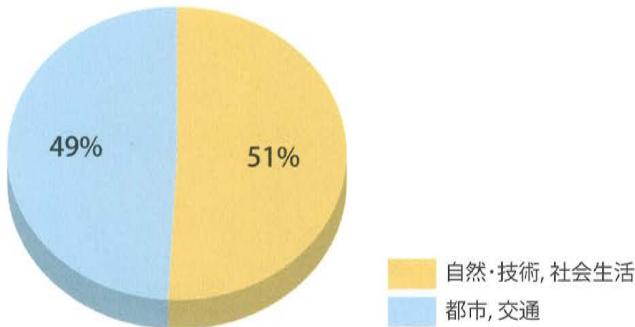
交通

携帯電話
車椅子
点字ブロック
信号・横断歩道
バス・つくバス
自転車
未来の乗り物

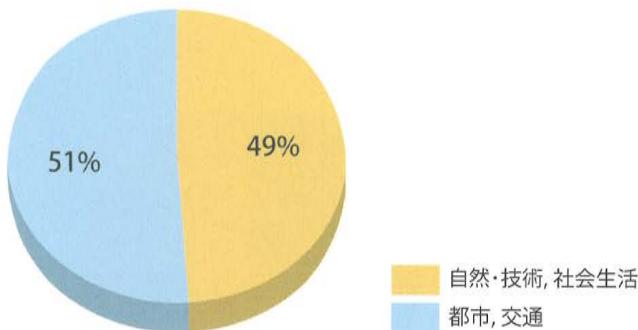
以下、各カテゴリーについて、男女別・地区別に分析を行った。

2) -① 絵画ジャンル別分析（男女別）

□ 男子 / 21作品



□ 女子 / 17作品

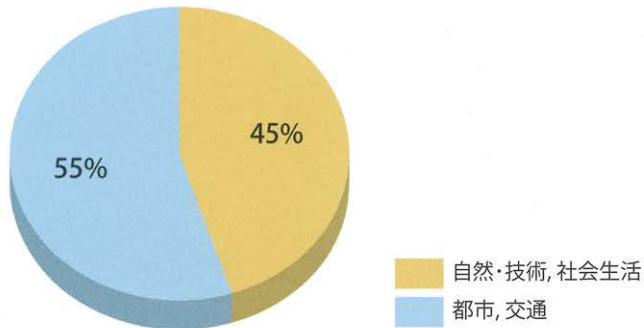


男子：つくばエクスプレスの描写が多く、関心の高さを感じた。個人の将来の夢に関する描写もあった。

女子：丁寧に自然を描いたものや、交通安全・安心を描いた内容が多く、男子に比べて現実的な作品が多かった。

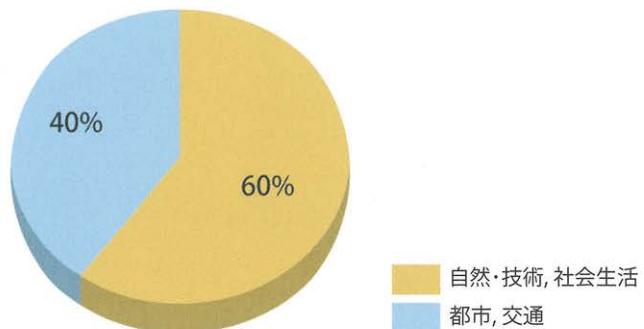
2) -② 絵画ジャンル別分析 (地区別)

□ 中心地区 / 25作品



周辺地区と比較すると、モチーフは変わらないが、道路、つくばエクスプレス、街並みを全体的に構成した作品が見受けられた。作文と同様に、歩行者の視点からの交通対策への提言もあった。

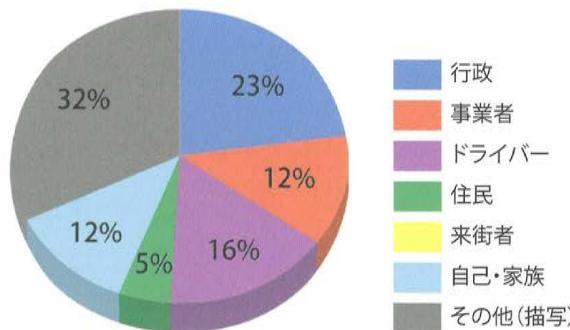
□ 周辺地区 / 13作品



作品には自動車が多く描かれていた。次いで、つくばエクスプレス、ランドマークである筑波山、エキスポセンターのロケット等の描写が多く描かれていた。中心地区と比較すると、自然環境保全についてのテーマが多く見られた。

3) 絵画言及先分析

各々の作品が最終的に誰に対して提言をしているのか、言及先別に分類した。



※その他:上記いずれの項目にも該当しないもの

ドライバーの危険運転・マナーへの警告が多くを占めた。その他自然を描くことによって行政や事業者に対し環境保全の大切さを訴えるものが多かった。
自身の将来の夢などもみられた。



(3) ポスター分析

1) ポスターーモチーフ抽出・カテゴリー分類

作品に描写されている、主なモチーフを抽出し、以下のようにカテゴリー別に分類した。

自然・技術、社会生活

自然・技術

筑波山
エコカー

社会生活

公園

都市、交通

都市

駐輪場
リンリンロード
つくばエクスプレス
モノレール

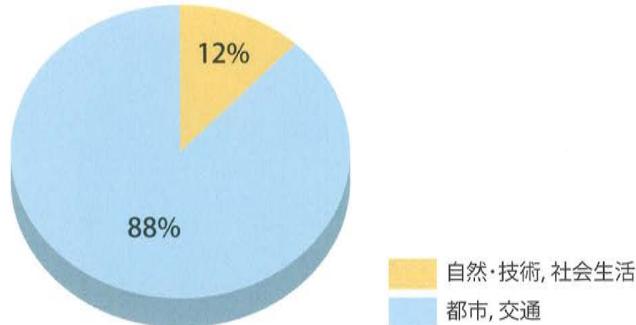
交通

信号・横断歩道
点字ブロック
自転車
バス・つくバス
未来の乗り物
清掃等
携帯電話
飲酒運転
スピード出し過ぎ
信号左右確認

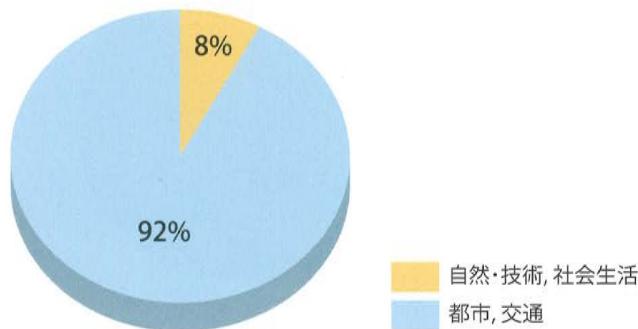
以下、各カテゴリーについて、男女別・地区別に分析を行った。

2) -① ポスタージャンル別分析（男女別）

□ 男子 / 9作品



□ 女子 / 12作品

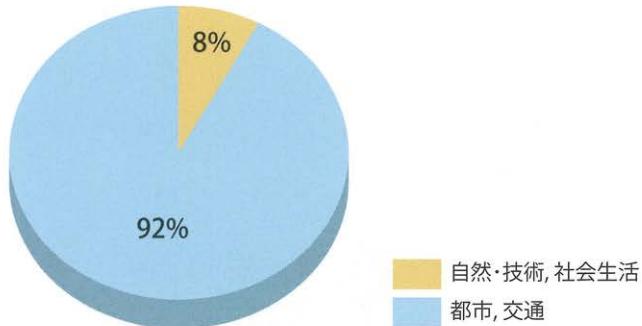


男女共に圧倒的に交通安全・ルールに関するものが多かった。モチーフに関しても、車・道路・横断歩道が多く見られた。

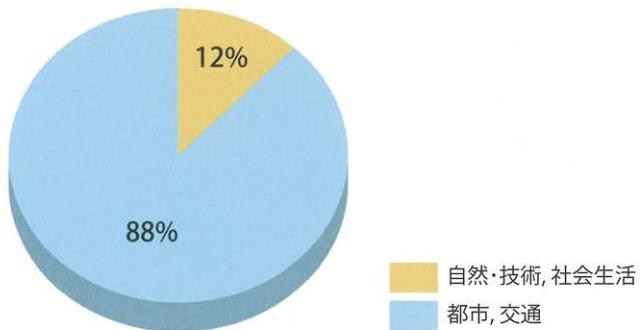
男子はつくばエクスプレスに関する描写が多く、関心の高さがうかがえた。

2) -② ポスタージャンル別分析 (地区別)

 中心地区 / 13作品



 周辺地区 / 8作品

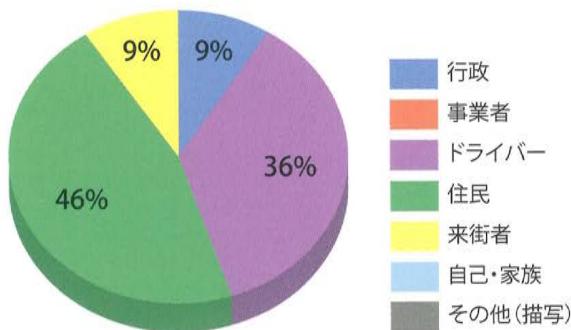


交通安全・ルールなどのモチーフが多く、個人差はあっても地域差は見られなかった。

周辺地域では自然保護が含まれていた。

3) ポスター言及先分析

各々の作品が最終的に誰に対して提言をしているのか、言及先別に分類した。



交通事故防止というテーマを、ドライバー・歩行者（住民）双方に言及している作品が多くかった。

その他、行政に関しては自然保護・都市美化を、来街者に関してはつくばエクスプレス車内の利用マナー（ゴミなど）に関する言及もあった。

3. 考察

3. 考察

今回、財団法人つくば都市交通センターが「少年少女が考えるつくばのまちと交通」の作品募集を企画したのは、つくば市内の小中学生が表記のテーマに関連して「どんなテーマに関心をもち、何を考え、何を改善しようとしているか、誰に訴えかけようとしているのか」を探ることであったが、期待通り、多くの作品が提出され、作品も見事な物が多かった。

当財団としてもこの結果を受けて、事業の柱の一つである「社会協力事業」の中で何ができるかを模索したいと考えている。作品部門別に当財団の考察を加えた。

(1) 作文考察

今回の作品募集では、作文は2,000字以内ということであったが少々小学校の低学年にとっては字数が多かったかもしれないが、やはり、小学校高学年、中学生になると飛躍的に作文の構成により起承転結がはっきりと表現され、鋭い訴えを明確に見事に表現した論文調のものも目立った。

都市の成熟過程における、現状の様々な問題点、例えば、防犯の観点や生活マナーの改善（違法駐車、信号無視）を指摘し、より快適に、より楽しい潤いのある街をめざし安全で安心して暮らせる生活環境を目指す視点で多くの作文が提出された。

また、科学都市つくばらしく、昨今の地球温暖化問題を取り上げ、環境問題に対する住民の意識の高揚を図った作文も目を引いた。

一方、今後の「つくばのまちと交通」のあり方について夢のある提案も少なからず目立った。特徴的であったのは、「ライトレール」の導入である。導入にあたっての課題等についても自分の経験に照らし必要性を論じていた。

どの作品も現実的な視点における改善策の提案が多く、行政に対する施策の実施要望に向けた提言やみんなで取り組む課題など言及先を明確にして論じていた点が特徴的であった。

具体的にカテゴリー別に整理すると、以下のようになった。



1. 地球、自然環境保全

つくばエクスプレス沿線地区の開発による森林伐採を目の当たりにして、自然がどんどん減っていくという危惧を抱え、排気ガス（CO₂）の排出による地球温暖化の問題やそれに対するエコカーでの対処策などにまで話が及んでいて、現実的であった。

2. 歩行者レベルの視点による交通安全

横断歩道の少なさや、歩道アスファルトの改善、道路のY字路、左折優先道路での視界の悪さの危険性等が挙げられた。改善策として、Y字路での視認性を補完するためのセンサー設置や信号機の増設などが挙げられた。中学生の作文では実体験や実地検証など、理論的に仕上げている論文性の高いものが見受けられた。

3. 自動車、自転車のマナー

駅前の路上駐車、駐輪に関するマナーの悪さの話題があった。前者は道路横断時に死角を作ってしまい、後者は歩道が狭まり、歩きづらいとともに危険であるという意見だった。

ドライバーの運転マナーについても言及していた。携帯電話で通話しながらの運転、飲酒運転、信号無視、スピードの出しすぎなどである。“茨城の運転マナーは悪い”という感覚が、他県に行ったときに実感したとの記述も数作品あった。

4. 駅前駐車、駐輪施設等の利便性

前述の路上駐車・駐輪を受け、“悪いとは知りつつもやってしまう”という原因として、つくば駅での自動車で待ち合わせ場所がないこと、駅前駐輪場の少なさを指摘していた。対策としては、前者は駅前ロータリーの設置、後者は地下駐輪場の設置を提案していた。

5. 交通手段などの利便

移動手段の限られている小中学生の視点で記述されていた。つくバスなどの公共バスに対する運行システムの改善（コストベネフィット的観点にも及ぶ）、バス停の設置、つくバスの無料化などの案も書かれていた。ライトレールの導入など、画期的な案も出ていた。

6. 不審者に対しての防犯対策

昨今の不審者の多発に対して中心地区の児童、学生には不安が多いと見え、言及している生徒が少なくなかった。対策としては、街灯・スーパー防犯灯の増設が上げられていた。“不審者はつくばエクスプレスに乗って外からやって来る”と認識している故に、つくばエクスプレスに対する意見も、利点ばかりではないという意見が少なくなかった。

7. その他

つくばエクスプレスの女性専用車両に対する考察や、文教地区らしい意見として人口増加による進学受験への影響といったものがあった。さらにつくば副都心構想などがあげられ、現在の中学生にはつくば＝都市という感覚が定着しつつあると思われた。

市北部の学校では、リンリンロード・筑波山等、つくばのPR観光に関する記述などもあった。交通弱者として共通している高齢者への配慮なども見られ、“優しいまちつくば”というキーワードも出ていた。

全体的には生活環境に即した題材が多く取り上げられていた。

ソフト面では、環境、交通マナー、交通機関の利便性、等に触れ、日常の安全・安心を訴えた作品が多く見られた。

ハード面では、駐輪場の設置、防犯対策、福祉等、具体的な提言による内容が目立ち、子供や歩行者にやさしいインフラ整備の実現を訴える内容が多く見られた。



(2) 絵画・ポスター考察

絵画・ポスターのモチーフとして描写されていたものを、大分類として、「自然・技術・社会生活」と「都市・交通」の二つに分けてみた。前者はつくばらしさやつくばのシンボルとしての描写（筑波山、田園風景、リンリンロード等）を背景にして、開発によって森林伐採がなされ「残そう自然、緑の保全を！」といったテーマや、生活利便性のツールとして自転車利用やバス（つくバス）利用の促進などのテーマで描かれていた作品が多くみられた。また、時代性の象徴としてエコカーの導入、普及などのテーマで将来のつくばの交通を描いた絵画などが見られた。

また、後者では「携帯電話運転の禁止」「車いす用道路整備」「身障者にも優しい明るい空間における交差点の賑わい」など言及先が素直に読み取れる作品が多くかった。

いずれの作品においても、現実を直視しながら何とか「つくばのまちをより良いものにしよう」としている命題が作品には表現されていた。色使いや、投射方法、陰影画法、遠近法、コラージュなどいろいろの技法を駆使しながら、「訴える事象」が作品にうまく表現され立体感にあふれる作品や躍動感に満ちた作品が多くみられた。

具体的にカテゴリー別に整理すると以下のようになつた。

1. 自然環境

地域性が反映されて、筑波山以外にも、緑、農地などの自然環境を描く環境保全をテーマにした作品の割合が多かつた。

2. 都市環境

公園、自転車、駐輪場など、都市地区ならではの描写が描かれていた。環境に配慮したエコカーなども登場していた。

3. 交通マナー

車、人の両者に対するマナーアップに関する提言が見られた。特に、歩道上の迷惑駐輪の危険性を訴えた描写が特徴的であった。また、飲酒運転や携帯電話で話しながらの運転など“ルールを守ろう”とドライバーに呼びかけるような作品も多かつた。



4. 観光

周辺地区の特徴として、つくばの観光 PR 的な作品も目立った。つくばエクスプレスを基本に、筑波山、ロケット、リンリンロードの描写を加えていた。

5. その他

純粋な描写も多く見られ、大別すると、つくばエクスプレスを中心とした街並みや道路交通を描いたものと、筑波山を中心とした、自然を豊かに表現したものに分けられた。少年少女たちのイメージするつくばは、この2つのイメージを抱いているといえるだろう。

全体として、現在の生活改善テーマと、将来のつくばへの夢と希望のテーマではほぼ同じ割合であった。現状のソフト面では、交通マナー、自然・交通環境を表現し、ハード面では、つくばエクスプレスや筑波山などつくばの象徴をビジュアル化して利便性や自然環境の保護を訴えた作品が目立った。

一方、将来のソフト面では、「自然豊かな科学都市つくば」への夢をアピール要素として、筑波山とエコカーの描写が目立った。

〈全体を通してのまとめ〉

今回の作品に書かれたひとりひとりの意見が確実に実施されていけば、世界に冠たる「科学都市つくば」はよりすばらしい都市になっていくであろう。これら小中学生の意見を真摯に受け止め、それぞれの力をあわせて未来のつくばを築き上げていくことが重要ではないだろうか。

当財団としても、こうした小中学生の意見なども参考に、「より良いまちづくり」のために貢献していきたいと考えている。



4. 優秀作品紹介



(1) 作文部門



優秀作品紹介（作文部門）

私は一歳の時からつくばに住んでいます。当時は、吾妻一丁目に我が家がありました。幼稚園の頃から自転車を乗り回して、色々な所へ出かけていました。中央公園や、松見公園にもよく行きました。その頃を振り返つてみると、赤信号で止まつた記憶がほとんどありません。私の行動範囲は、ほとんどペデストリアンデッキでつながり、車が通る上を、いつも、すいすい自転車で走っていました。

しかし、このような恵まれた環境はつくばだけだと初めて知ったのは、小学校四年の時です。父の転勤のため、私は福島県福島市の小学校に転校になりました。福島にはペデストリアンデッキなんかありません。家から一歩出ると、車がビュンビュン走っています。歩道もなく、白線が引いてあるだけです。最初は自転車を乗るにも勇気がいました。自動車の横と一緒に自転車で走るのも

慣れれた頃、二年ぶりにぐくには戻りました。戻ってきたのは、つくばエクスプレスが開通した直後だったので、たったの二年間でまちが大きく変わつて、いるのに驚きました。二度目のつくばの住まいは、ロケットがひとときわ目立つエキスポセンターの近くの吾妻三丁目です。今回は無信号ゾーンに入るためには、残念ながら一つだけ信号を渡らなければなりません。でも、その先は、今も変わらず歩行者・自転車天国です。

中学校三年生になり、新しい自転車を手に入れたので、久しぶりに「つくば公園通り」を端から端まで走りました。この道は、南端の赤塚公園に始まり、洞峰公園、二宮公園、竹園公園、中央公園を経て、北端の松見公園に至る約五キロメートルの歩行者・自転車専用の道路です。自動車のためのメインストリートが東通り、西大通りだとすると、ここは、

に迷うことは少ないのでしょう。また、歩行者の休憩用に、いたるところにベンチが設置され、トイレも公衆トイレや公共施設のトイレを合わせると十二箇所もあります。防犯対策としては、スーパー防犯灯が設置され、非常ボタンを押すとサイレンが鳴り、すぐ警察に通報ができるようになります。

また、歩行者と自転車を分ける工夫としては、道路を左右に分けて、半分がアスファルト舗装、もう半分が石畳になつてているところがあります。自転車はがたがたせりやすいため、アスファルト舗装の部分を自然と走ります。駐輪場も少しづつ増えてきています。

環境への配慮も高まつてきています。太陽電池や風力発電を用いた照明が設置されています。中央公園はフクロウの彫刻が飾られ、たくさんの人々が持ち寄った鉢植えの花が飾られています。

つくば市長賞

歩行者・自転車用の大通りと言ふる
でしょう。

このような公園通りですが、もつと良くするにはどうすればよいのでしょうか。利用している人は、普通に歩いている人や自転車に乗っている人以外に、ジョギングしている人もいます。各々の立場に立って考えてみます。

歩行者の立場からいうと、「一番は、防犯上の問題です。まだ、つくばやセンター周辺はよいのですが、市街地の中心から離れるにつれ、人通りが少なくなります。特に赤塚公園と洞峰公園の間は、緑のトンネルになつていて、夏には涼しくていいのですが、昼間でも少し気味が悪いと思いました。ベンチもあるのですが、ぼろぼろで座る気がしません。おしゃれな喫茶店やレストランが近くでできると、人も集まってきて安心できると思います。

自転車に乗る人にとって最大の問題は、駐輪場がまだまだ少ないことです。最近は放置自転車の撤去が厳しく行われていて、歩行者には嬉しいのですが、自転車に乗る人は困っていると思います。また、ペデストリアンデッキの部分は真ん中が高くなつていて、自転車をこぐるには力がいりました。お年寄りの人には

少しつらいかもしれません。また、車椅子の人も大変でしょう。
ジョギングコースを決めて、走った距離が分かる看板をつけるといいと
思います。

つくばエクスプレスの開通とともに、つくばには住宅やマンションが
たくさん建ち始めました。小学生は増えていくようです。また、これからは、ずっとつくばに住む人も増え、お年寄りも増えてくるでしょう。
子供からお年寄りまでが、走つても、杖をついて歩いても、自転車に乗つても（お年寄りは電気自転車、電動カートかもしれません）みんな思い通り。これが実現すれば、未来のつくばは、きっと日本で最も住みやすいまちになるでしょう。そんなつづばなら、私もずっと住んでいたいと思います。

※本文はオリジナルをそのまま掲載しております



優秀作品紹介（作文部門）



財団法人つくば都市交通センター理事長賞
ぼくのすきなつくばのバス

竹園東小學校
二年 清山
毅

はぐは、つくバスかすきてす。今年の七月に、ぼくのクラスで、つくばのバスのアンケートをとりました。はじめに、つくバスをしつている

(二十八人) のうち、十二人がしつついました。

三つ目に、つくバスにのつてみた
いかどうかを聞きました。二十六人
した。

クラスの半分がつくバスをしつて
いるのに、じつさいにのつたことが
ある人が九人しかいないのにおどろ
きました。しかし、クラスのほとん

どの人が、つくバスにのつてみたい
と思つて、いることがわかりました。
まくは、二回のつたことがあります。

す。だけど、クラスのみんなと同じように、もつと色いろなつくバスに

ました。

そのためには、つくバスやサイエンスバスをどんどんせんでんして、子どもでものりやすいバスをふやし

てほしいと思います。また、おはあちゃんや、おじいちゃんにとつてものりやすい、ノンステップバスがふ

えるとたすかります。

た近くにレンタサイクルがあるとへんりです。それとも、バスにのる時、ついでに自分の自転車もはこべる

といいなと思います。バスからおりて、すぐ自分の行きたい所に自てん車で行けるからです。

地球のためにも、これからつくば市のためにも、みんなができるだけバスをつかうようになります。

問題が論理的に構成されていて優秀である。
解決法が具体的である。

三言

※本文はオリジナルをそのまま掲載しております。

優秀作品紹介（作文部門）

株式会社常陽新聞新社
社長賞

路面電車、バス、自転車

桜南小学校 六年 大脇 明琳

つくばエクスプレスができる、東京に行くのはとても便利になりました。でも、つくば市の中は、バスも少なく、駅に行くのも大変です。

つくば市はとても広いので、つくば市全体をバスだけでむすぶのは、むずかしいと思います。そこで、路面電車とバスと自転車の3つで、つくば市をつなげたらいいと思います。そうすれば、車に乗らなくともよくなるから環境にいいし、騒音も少なります。そして、学生とお年寄りはどこでも無料になると学校や病院に行くのにとっても便利になります。

路面電車は、つくば駅を中心と南北に走り、路面電車の駅からは、バスが地域に出ます。路面電車もバスも床をひくくして、お年寄りや車いすの人にも乗りやすくなります。そして、自転車は、バスにも路面車にも乗せられるようになります。そうすれば、バスや路面電車からおりてから自転車でかいものや学校に行けま

す。つくばはエクスプレスにも自転車をのせられるようになりますといふことがあります。そうすれば東京から来た人も自分の自転車でつくば市を回るることができます。そうすると、つくばに来る人も多くなると思います。つくば市は、山が少なく、平らだから自転車で走りやすい所だと思います。だから自転車で走る道をふやすといふ思います。自転車で走る道は夜はあかるく、でこぼこしていらない安全で走りやすい道にするといふと思ひます。車と自転車の走る道に分けて自転車が安全に走れるようにします。そして、人も安全に歩けるように、歩道を分けます。バス停には、木を植えて、木かげを多く作ります。川の回りは公園と歩道にして、川に沿つて人と自転車が自由に通行できるようにしたらいふと思います。自然をうまく使うことで、人も自転車も快適に移動できるようになると思います。



ドイツの町を走る路面電車

講評
駐輪場の問題という、児童らしい問題提起である。独自の発想で解決案を提案していくよ。

つくばはつくばエクスプレスが通り、にぎやかになりましたが、自然がまだたくさんのがっています。路面電車とバスと自転車を使ってつくば市をつなぐことで、自然の豊かなつくば市をさらに便利で住みやすく、環境によい町にできると思います。

※本文はオリジナルをそのまま掲載しております。

優秀作品紹介（作文部門）

優秀賞

「つくば市にライトレールを」

筑波東中学校 三年 川田

悠馬

私はつくばのまちにライトレールを導入してほしいと思います。現在つくば市の人口は二十万人をこえ、TX効果によつてさらなる発展が期待されます。しかし、道路の渋滞が多いことやインフラの地域格差による北部地域の人口減少などの問題があります。中でも私が渋滞が多いと感じる道路は国道四百八号線や市中心部のつくばセンター付近です。現在路線バスが運行されていますが定期運行が難しく、環境への影響などの問題を抱えています。ライトレールの導入によってこれらの問題点を解決できると思います。

私の考えるライトレールの具体的な路線は・・・

一、ひたち野うしく駅とつくばセンター間。

二、つくばセンターと筑波山口駅間。

この二つです。なぜこの二つののかというと、一つ目のひたち野うしくからつくばセンター間は通学利用

を導入してほしいと思います。現在つくば市は二十万人をこえ、TX効果によつてさらなる発展が期待されます。しかし、道路の渋滞が多いことやインフラの地域格差による北部地域の人口減少などの問題があります。中でも私が渋滞が多いと感じる道路は国道四百八号線や市中心部のつくばセンター付近です。現在路線バスが運行されていますが定期運行が難しく、環境への影響などの問題を抱えています。ライトレールの導入によってこれらの問題点を解決できると思います。

一つ目は富山県高岡市の万葉線です。高岡市の人団は約二十万人でつくるば市に近く、中心部とその他の地域を結ぶという機能を万葉線が担っています。

二つ目は広島市のライトレールです。人口の規模は全く異なりますが日本では一番進んだライトレールです。これら二つの他にもヨーロッパに目を向けると人口がつくば市よりも少ない都市でもライトレールが普及していく大変参考になると思い

ます。

少子高齢化が進む中で交通弱者が増え、より人に優しい乗り物が求められています。ライトレールは人と環境に優しく、建設コストも低くできます。つくば市にさらなる発展のためにもライトレールの導入は良い起爆剤となるのではないのでしょうか。

山口については北部地区の活性化、観光客の増加そして国道四百八号線の混雑緩和に繋がるために建設します。また大穂地区では人口増加が見られるので需要が見込まれます。次にライトレールの導入にあたつて参考となる他県の鉄道を紹介します。

つくば市の交通量が今後増えていくことを見越した上で、路面電車を提案したところがすばらしい。

講評



優秀賞

環境にやさしく便利なつくバスに

筑波東中学校 一年 大塚 彩夏

私はつくば市のバス交通について提案したいと思います。私は毎日中学校まで「リンリンロード」を自転車で通学していますが、自転車専用道路なので、一般的の道路に比べれば安全で走りやすいのですが、雨の日や部活で遅くなると特に冬は真っ暗になり街灯もないのに少し恐いときもあります。この「リンリンロード」は筑波鉄道が一九八七年に廃止された跡に作られたもので汽車が走っていたころは中学生や高校生がこの鉄道で学校に通っていました。今家の近所を「つくバス」の「地域循環」が走っていますが、あまり乗っている人はいません。運行時間がそうで少しうらやましいと思いました。今家の近所を「つくバス」の「地域循環」が走っていますが、あまり乗っている人はいません。運行時間は朝や午になればうれしいと思います。朝、部活のある人と3年生など部活のない人のために2本時間に合わせてバスが走っています。つくばエクスプレスが走っているとバスで通えます。

つくば市は、アメリカの都市のように車がないと、どこにも行けないと言われてきましたが、つくばエクスプレスが開通し、研究学園駅近くには市役所、大きなショッピングセンターなどの計画もあり、今後交通の流れも変わると思います。外国で暮らす車が入ることを制限して、環境にやさしく、安心して暮らせるまちを作る必要があると思います。

講評
環境に優しい街つくばをめざし、バス停の近くに自転車置き場の設置を提案する視点がよい。

優秀作品紹介（作文部門）

私はつくば市のバス交通について提案したいと思います。私は毎日中学校まで「リンリンロード」を自転車で通学していますが、自転車専用道路なので、一般的の道路に比べれば安全で走りやすいのですが、雨の日や部活で遅くなると特に冬は真っ暗になり街灯もないのに少し恐いときもあります。この「リンリンロード」は筑波鉄道が一九八七年に廃止された跡に作られたもので汽車が走っていたころは中学生や高校生がこの鉄道で学校に通っていました。今家の近所を「つくバス」の「地域循環」が走っていますが、あまり乗っている人はいません。運行時間は朝や午になればうれしいと思います。朝、部活のある人と3年生など部活のない人のために2本時間に合わせてバスが走っています。つくばエクスプレスが走っているとバスで通えます。

つくば市内の中学校の数は十四校あります。現在「つくバス」は「地域循環」が十三コースと「センター循環」が走っていますので市内の中学校すべてでスクールバスとしての利用が可能だと思います。二年前につくばエクスプレスが開業して、秋葉原まで四十五分で行けるようになりました。各地区から通勤・通学や買い物などできでつくば駅があるセンター地区までの交通はより重要なと思います。昨年から「つくバス」の「北部シャトル」が「筑波山口」から「つくばセンター」まで走っています。「筑波

山口」は私の家からも近く、市の中区から「つくばセンター」までの直通バスを走らせるべきだと思います。「北部シャトル」は、途中つくば支所があればという話が出ますが、現在のつくバスをスクールバスとしても利用できるようにすれば解決すると思います。もちろん、バス通学が自動車通学かは選べるようすればいいし、今までどおり誰でも乗れるようすればいいと思います。そうすれば、「つくバス」の「地域循環」の利用率も高くなると思います。つくば市内の中学校の数は十四校あります。現在「つくバス」は「地域循環」が十三コースと「センター循環」が走っていますので市内の中学校すべてでスクールバスとしての利用が可能だと思います。二年前につくばエクスプレスが開業して、秋葉原まで四十五分で行けるようになりました。各地区から通勤・通学や買い物などできでつくば駅があるセンター地区までの交通はより重要なと思います。駅にマンションや住宅などが増え、ショッピングセンターなどができれば、市内に入る車はさらに増え渋滞はひどくなると思われます。自動

心部に行くのに非常に便利です。そこで、「北部シャトル」のように各地で、「つくばセンター」までの直通バスを走らせるべきだと思います。「北部シャトル」は、途中つくば支所と大穂支所の一ヶ所にしか止まらず、しかも朝六時から夜の十時まで三十分間隔で往復しているため、とても便利です。早くいていつでも乗れると思うと安心して利用できます。「地域循環」は、本数が少なく止まる停留所も多く時間がかかるため利用者が少ないのだと思います。

優秀作品紹介（作文部門）

放置自転車とより良い生活環境
吾妻中学校 二年 大泉 圭那

優秀賞

自転車は、未成年の私にとって、最適な交通手段です。小さい頃は、乗るのも大変で、転んでケガをした事もあつたけれど、最近友達と出掛ける時などは、いつも自転車に乗つて行きます。自転車は、自動車と比べて事故が少なく、免許がなくても乗る事が出来ます。

また、排出ガスが発生しないため、地球温暖化問題が呼ばれる今、クリーンな移動手段として見直されているそうです。しかし、それと同時に盗難や放置自転車などの問題も、後を絶ちません。そこで私は、実際家の近くにもある放置自転車について調べてみました。

問題の事象にどうわれず原因の根本を中学生の目を通して考えて価値ある作品である。



市内で見かけた放置自転車の撤去看板



放置自転車

いる身体障害者、車両などのほかの交通に障害を与える場合があります。また都内では、歩道や狭い道路でも二重・三重で無造作に放置するため、緊急自動車の通行がさまたげられ、救命救急・消防活動などの人命に関わる事態への対応に支障となる場合があります。

私が住むつくば市では、つくばエクスプレスの利用者が駐輪料金を敬遠して、デパートや図書館などに数多く駐輪されています。そのため、さまざまな対策が行われています。そのため、つくば市では、撤去した放置自転車を一定期間市で保管し、保管手数料を払えば、自転車を引き取る事が出来ます。保管手数料は、自転車が千円、原動機付自転車が千五百円で、他県と比較するととても安い方です。しかし、返還率は低く、意図的な廃棄や盗難自転車が多いのが原因のようです。駐輪場に関しては、つくばエクスプレス開通前と比べて、収容台の数も増え、定期利用や一時利用など在は満車状態で、無断駐輪が後を絶たないそうです。

私は、一人一人が当たり前の事をすれば、放置自転車の問題は解決出来ると思います。当たり前の事といふのは、自分の自転車は自分でしっかり管理する、決められた場所にマナーを守つて駐輪する、という事で年齢に関係なく、気軽に乗る事が出来ます。しかし、一人一人の管理の仕方や使い方によって、他の交通に障害を与えたり、人命に関わる事態の対応に影響する事もあります。また、市街地の景観の悪化にもつながります。だからこそ、「当たり前の事を当たり前にやる」という意識をもてば、放置自転車の問題の解決につながると思いました。

放置自転車の問題だけでなく、ごみのポイ捨てや飼い犬などのふんの放置、歩行喫煙といった、一人一人のモラルやマナーに関する問題が増えて、清潔できれいな生活環境の悪化が懸念されています。そのため、「つくば市きれいなまちづくり条例」が、市民・事業者・市が協働して快適

(2) 絵画・ポスター部門



優秀作品紹介（絵画・ポスター部門）

つくば市教育委員会教育長賞



タイトル きれいな町つくば

学校・学年 二の宮小学校 四年

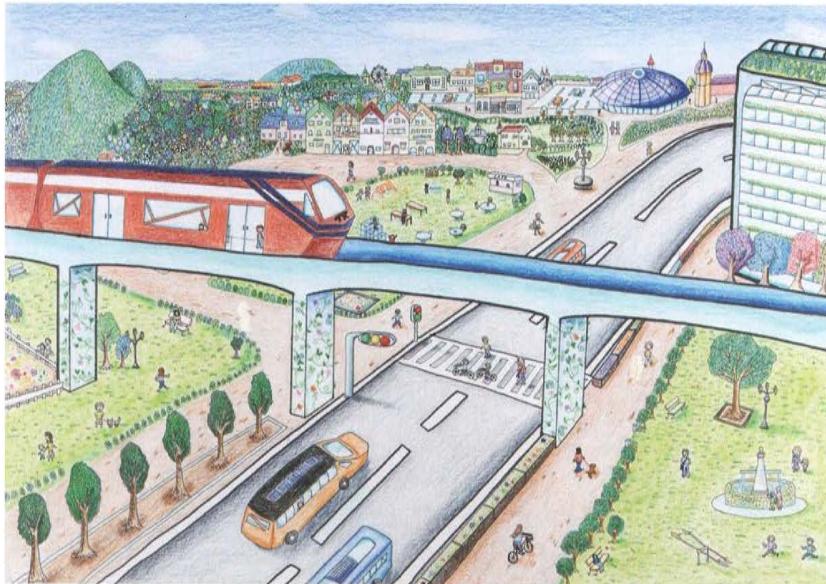
名 前 杉山采里奈

講評

自然との共生が描かれ、想像力豊かで、独創的である。色使いがとてもよい。

優秀作品紹介（絵画・ポスター部門）

財団法人研究学園都市コミュニティケーブルサービス 理事長賞



タイトル 緑であふれる街つくば

学校・学年 竹園東小学校 六年

名 前 指田 夏央里

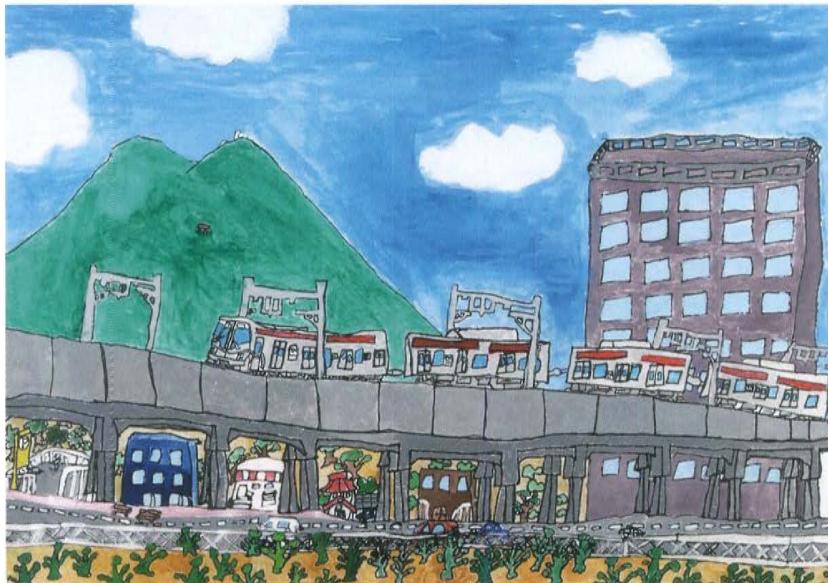
講評

鳥瞰的構図がよい。絵が好きだ、という気持ちが伝わってくる。
つくばの要素がすべて揃っている。



優秀作品紹介（絵画・ポスター部門）

茨城県駐車場協会 会長賞



タイトル TXと緑の街つくば

学校・学年 島名小学校 三年

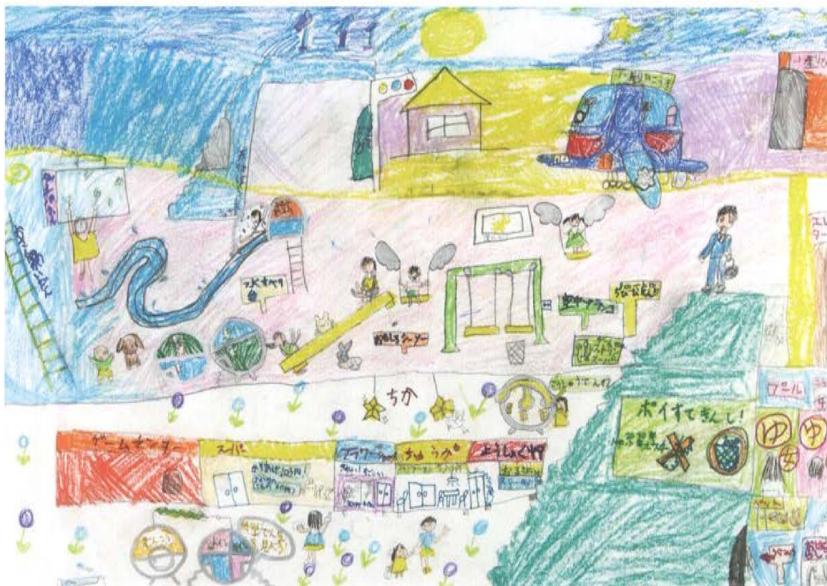
名前 唐澤 壱成

講評

TX、筑波山、野菜畑の配置のバランスがよい。
原色を使わず、色使いの感性が育っている。

優秀作品紹介（絵画・ポスター部門）

優秀賞



タイトル すてきな未来

学校・学年 並木小学校 二年

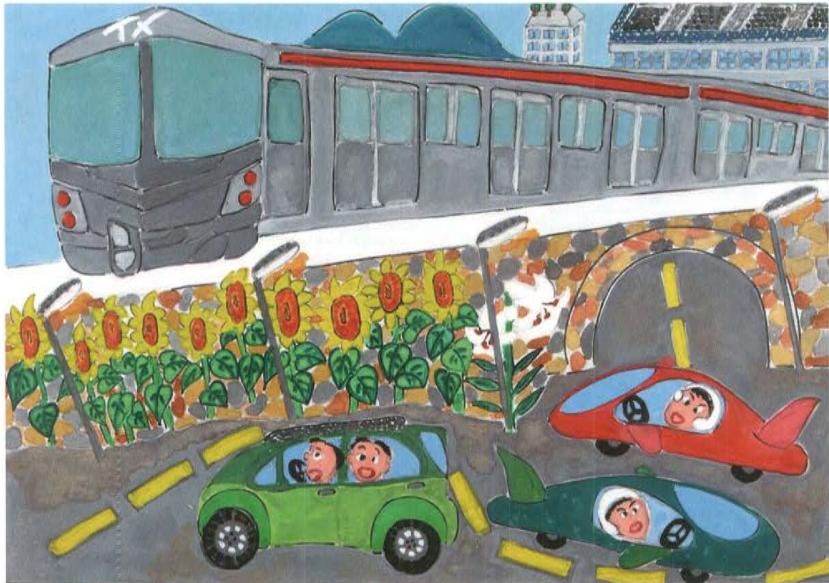
名 前 上杉 和代

講評

自分の思いが込められている。子どもの視点での内容表現がすばらしい。

優秀作品紹介（絵画・ポスター部門）

優秀賞



タイトル 未来の乗り物

学校・学年 谷田部小学校 三年

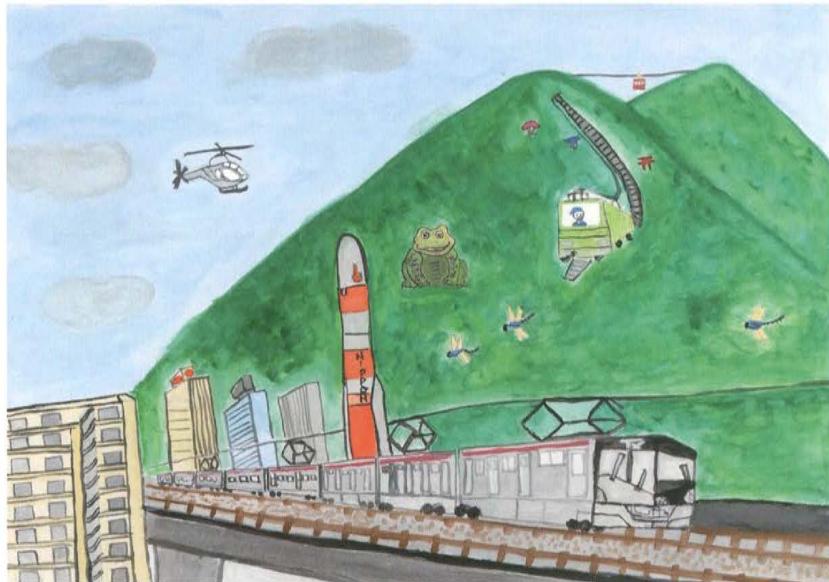
名 前 齋藤 菜摘

講評

自分なりの美しい環境を目指した都市交通をイメージし、丁寧に描かれた作品である。

優秀作品紹介（絵画・ポスター部門）

優秀賞



タイトル 筑波山まで、エクスプレスをはしらせよう

学校・学年 大形小学校 五年

名 前 小田部 好紘

講評

遠近法を上手に使い、動きのある迫力ある作品に仕上がっている。



優秀作品紹介（絵画・ポスター部門）

特別賞



タイトル みんなにやさしいまち「つくば」

学校・学年 前野小学校 四年

名 前 森田 修平

講評

丁寧に作り上げた作品である。

人の表情も明るく、やさしいまちを相手にイメージさせてくれる。



5. 参考

5. 参考

(1) 募集

1) 募集パンフレット：表紙





2) 募集パンフレット：案内

少年少女が考える「つくばのまちと交通」募集案内

① 関 督

つくばエクスプレスが開通し、つくばのまちは大きく変化しつつあります。財団法人つくば市交通センターは「つくばのまち育て」に貢献する公益法人として設立され、平成20年6月に創立20周年を迎えます。

このような中、当財団は、つくばに住み、つくばを防ぐ皆様とともにこれから「つくばのまちと交通」について考え、少しでも実現できるものから改善に取り組んでいきたいと考えています。

そのため、つくばの次世代をなう少年少女の新鮮な発想、創造力を通じて「つくばのまちと交通」をより良いものにするヒントを得るべく、平成19年度、平成20年度の2ヵ年にわたり、作文、絵画、ポスターによる作品を募集することに致しました。

応募作品は「つくばのまちと交通」に関連したものを、自由な発想で自ら考え、家族や友達との語らいや学校での交流などを通して感じたもののを、幅広い視点で素直に表現していただきたいと考えています。

② 募集内容

(1) 対象 つくば市内の小学校の児童、中学校の生徒

(2) テーマ 「つくばのまちと交通」に関する

- ① 将来の姿やイメージ
- ② 身近な問題とその解決のアイデアや提案
- ③ 人々に呼びかけたいこと
- ④ 私はこうしたい、こうなりたい希望や夢

などを参考にして作囲にまとめてください

(3) 募集作品

① 作文 (400字詰め用紙、2000字以内)

※ 写真、図面、グラフ等を入れていただいて構いません。

② 絵画 (用紙サイズ: 38×54cm程度)

③ ポスター (用紙サイズ: 38×54cm程度)

※ 写真等を貼付使用したコラージュ(切貼り)作品、CG作品も可とします。

(4) 募集時期

平成19年夏休み

※ 募集締め切り: 平成19年9月7日(金)までに、通学する学校に提出してください。

③ 賞

小学校低学年、小学校高学年、中学校に3区分し、作品の種別を問わず、優秀な作品、個性的な作品を選定します。

①個人賞…つくば市長賞ほか

②団体賞…優秀小学校賞、優秀中学校賞

③家庭賞

④ 審査及び 審査結果の 発表

財団法人つくば市交通センターは設ける審査委員会で審査し、平成19年9月下旬に入賞者を決定し、入賞者の所属する学校及び入賞校にご連絡いたします。なお、表彰式は10月上旬を予定しており、入賞のご連絡の際に会場、日時をあわせてご連絡いたします。

⑤ 注意事項

① 応募作品は、自作で未発表のものに限りります。

② 作品創作、提出等に費用がかかる場合、費用等は自己負担をお願いします。

③ 応募は一人1作品とし、作品の大きさ、分量等は過大なものにならず、費用等も最小限なものをお願いします。

④ 応募作品には必ず、以下の要領で学校名、学年、氏名、作品タイトル、作品の説明を記載してください。

○ 作 文……………応募用紙をきりとり縫てきりとり、作品全枚数(ページ記入)と一緒に応募用紙を作品左上隅にホチキス止めしてください。

○ 絵画、ポスター……応募用紙をきりとり縫てきりとり、作品の裏面右下隅にしっかりと貼り付けてください。

※なお、応募用紙がはがれることがありますので、作品裏面左下に鉛筆書きで学校名、学年

と氏名を記載してください。

⑤ 作品提出は学校を通じてお願いします。入賞の作品以外は学校を通じて返還します。

⑥ 入賞の作品は、当財団にて展示、活用させていただきます。原則として入賞作品は返還いたしません。

⑦ 主催等

主催：財団法人つくば市交通センター
後援：つくば市・つくば市教育委員会・茨城県つくば中央警察署・茨城県つくば北警察署
共催：新聞新社・財団法人研究学園都市コミュニティーグループサービス (ACCS)



3) 募集パンフレット：応募用紙

応募用紙

少年少女が考える「つくばのまちと交通」

主催：財團法人つくば都市交通センター

《作文・絵画・ポスター》

*出品する作品に○してください

作品 タイトル	
学校名	学 校
学 年	年 生
ふりがな	
氏 名	男 · 女
作品説明	N

注) 作品説明は、100~200文字の範囲でご記入ください。

注) 作文・絵画・ポスターの応募用紙をきりとり線できりとり、作品余枚版(ページ記入)と一緒に作品の左上隅に“ホチキス止め”してください。

絵画、ポスター・応募用紙をきりとり線できりとり、作品の裏面右下隅に“のりつけ”してください。

なお、応募用紙がはがれることがありますので、作品裏面左下に鉛筆書きで学校名、学年と氏名を記載してください。

参考例

・ポスター

表面



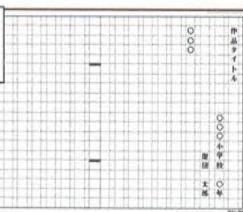
例：みんなの迷惑 違法駐車

裏面



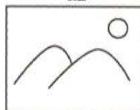
・作文

応募用紙



・絵画

表面



裏面





(2) 記録

1) 募集掲載

広報つくば 2007. 7. 15(平成19年)

少年少女が考える 「つくばのまちと交通」

今、大きく姿を変えようと
しているつくばのまちと交通
をテーマに、少年少女の作品
を募集します。

内 容	①作文 ②絵画 ③ポスター※夏休みに作成したもの
対 象	市内の小・中学生
応募方法	9月初旬に通学する小・中学校へ提出
ください	※詳しくは各学校から配布の 募集案内・ポスター等をご覧 ください
賞	つくば市長賞ほか
問	(財)つくば都市交通セン
タ ー企 画 業 务 部	(859) 1 9 0

(平成19年7月15日:広報つくば)



2) 一次審査会



(平成19年9月21日：つくば市役所豊里庁舎体育館)



3) 二次審査会



(平成19年10月5日：つくば市役所谷田部庁舎)

4) 表彰式

会場風景



表彰状授与



受賞者集合写真



(平成19年10月21日:つくば国際会議場)

5) 表彰式記事掲載



(平成19年10月22日：常陽新聞)

まちのわだい

広報つくば 2007.12.1 (平成19年)

作文・絵画・ポスター作品表彰式

少年少女が考える「つくばのまちと交通」

10月21日、少年少女が考える「つくばのまちと交通」(留團法人大つくば都市交通センター主催)の表彰式がつくば国際会議場で開催されました。

つくば市長には、「小さいときから大切なんだ。つくばは公園通りを歩いてて新しい発見があつた」と語った坂未来子さん(佐藤中の作文が選ばれました)が受賞者でした。その他の受賞者は、次のおとります。

つくば市教育委員会教育振興課・杉山里奈さん(二年宮小)、財团法人つくば市交通センター理事長賞・清山さくら(竹園東小)、株式会社常陽新聞社長賞・大庭洋介(桜井南小)、財团法人研究開発市コミュニティープラザ理事長賞・吉田豊里さん(竹園東小)、茨城県駐車場協会賞・唐澤亮成さん(鳥名小)、優秀賞・松和代さん(並木小)、青葉菜穂さん(谷田部小)、小田部恵枝さん(大形小)、大塚彩夏さん(筑波東小)、大泉良那さん(舟登小)、川田悠馬さん(筑波東小)、特別賞・森田修平さん(前野小)、優秀学校賞・小学校(海原小学校)、優秀学校賞(小学校の部)・竹園東小学校

▲受賞者の皆さんおめでとうございます

（写真左側）

(平成19年12月1日：広報つくば)

6) 表彰式 ACCS 放送

平成 19 年 10 月 24 日：ACCS チャンネル 9、チャンネルつくば 702

平成 19 年 11 月 5 日～12 月 2 日：チャンネルつくば 702

7) 受賞作品紹介掲載

少年少女が考える「つくばのまちと交通」受賞作品 紙上紹介

主催・財団法人つくば都市交通センター

特選賞

みんなにやさしいまち

少年少女が考える「つくばのまちと交通」受賞作品 紙上紹介

つくば市にライトレールを 岩波東中学校3年 川田 悠馬 優秀賞

放置自転車より良い生活環境 菅原中学校2年 大泉 主里 優秀賞

少年少女が考える「つくばのまちと交通」受賞作品 紙上紹介

環境にやさしく便利なつくバスに 駿府東中学校1年 大塚 彩夏 優秀賞

少年少女が考える「つくばのまちと交通」受賞作品 紙上紹介

路面電車、バス、自転車 大庭 明琳 優秀賞

常陽新聞

少年少女が考える「つくばのまちと交通」受賞作品 紙上紹介

ぼくのすきなつくばのバス 竹園東小学校2年 清山 謙 優秀賞

少年少女が考える「つくばのまちと交通」受賞作品

人と自転車が主役のつくば公園通り 上坂 未来子 優秀賞

研究学園都市コミュニケーションサービス理事長賞

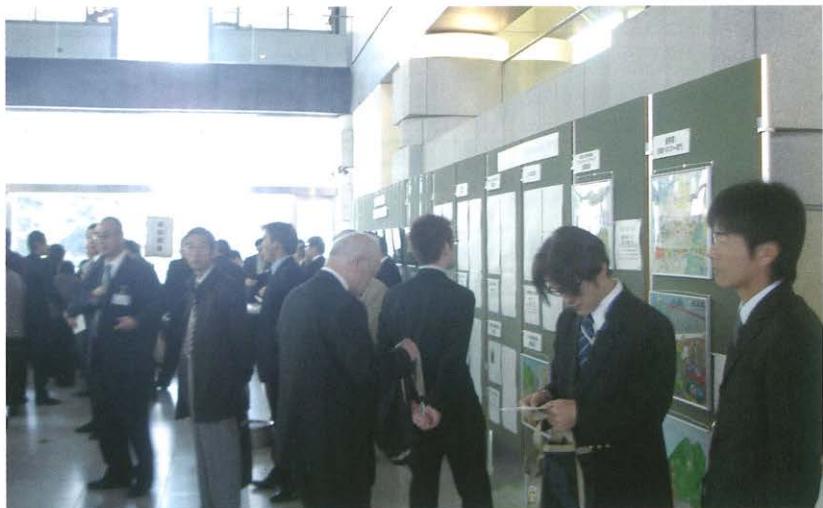
美しい町つくば 二の宮小学校 4年 杉山 采穂奈 優秀賞

主催・財団法人つくば都市交通センター

(平成19年11月2・3・4・6・7・9日:常陽新聞)



8) つくば市制 20 周年記念式典



(平成19年11月30日:ノバホール)



9) 平成 20 年カレンダー





あとがき

本作品募集にあたり、ご後援をいただきました、つくば市、つくば市教育委員会、茨城県つくば中央警察署、茨城県つくば北警察署、常陽新聞新社、財団法人研究学園都市コミュニティケーブルサービス（ACCS）の方々、また、茨城県駐車場協会の方々をはじめ、ご協力を頂きました関係者の皆様に、本誌を借りて、厚く御礼申し上げます。

財団法人つくば都市交通センター

発行日 平成20年3月

発行所 財団法人 つくば都市交通センター

〒305-0031

茨城県つくば市吾妻1-5-1

Tel 029-855-7211

